

令和4年第7回定例

羅臼町教育委員会議事録

令和4年7月定例羅臼町教育委員会

1 日 時 令和4年7月20日(水) 13時30分～15時10分

2 場 所 羅臼町役場3階第5・6会議室

3 出席者

教育長	石 崎 佳 典
委 員	萬 屋 志都子
委 員	葛 西 良 浩
委 員	芦 崎 拓 也
委 員	佐々木 美 穂
教育指導主幹	横 澤 英 三
学務課長	平 田 充
社会教育課長	野 田 泰 寿
総務管理係	黒 田 一 気

4 欠席者 なし

5 傍聴者 なし

6 議 題

報告 第 9号 諸会議・諸行事について

7 その他

(1)主幹通信について

(2)情報共有について

## 【開 会】

### ○石崎教育長

それでは、これより令和4年第7回教育委員会を開催いたします。

開催に先立ちまして一言ご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の状況は全道、全国で感染が拡大している状況となっており、管内でも日々感染者が確認されていますが、幸いにも羅臼町は感染者0人が続いている状況となっています。

本格的な夏を迎え、学校では感染予防対策としてマスク着用と併せて熱中症予防に取り組んでおり、場面によってマスクを外すなどの対応がとられています。

また、7月前半には小学校、中学校の修学旅行が実施され、大きなトラブルもなく無事終了しており、その後の体調面についても良好との報告を受けており安堵していますが、学校には引き続きの感染対策をお願いしているところです。

幼稚園、小学校、中学校は7月23日から8月17日まで、羅臼高校は7月26日から8月17日までそれぞれ夏季休業に入りますが、児童生徒の休業期間中の交通事故防止と、教員の交通違反や服務規程の遵守を校長会及び教頭会で指導するようお願いしております。

暑い日が続いていますので、委員の皆さまも体調管理に配慮頂くとともに、外出の多いシーズンを迎えますので交通事故などに十分気を付けましょう。

それでは会議に入らせて頂きます。

本日、全委員が出席されておりますので会議は成立といたします。

本日の議事録署名委員につきましては、萬屋委員と佐々木委員をお願いいたします。

本日の議題は、報告第9号「諸会議・諸行事について」となっております。

議事に入る前に、私より2点の行政報告をさせていただきます。

一点目は、車いすの寄贈についてです。

7月15日に羅臼町社会福祉協議会より車いす一台の寄贈を頂いております。

寄贈頂いた車いすは社会福祉協議会と話し合いを行い、車いすが配置されていない羅臼町民体育館「らうすぽ」に配置しております。

二点目は、礼文島の高校視察についてです。

7月11日から13日にかけて、羅臼高校存続に係る全国公募の取り組みを進めるにあたり、宗谷管内の礼文島の高校視察を実施しました。

羅臼町としては、早ければ令和6年度入学者から全国公募を実施したいと考えており、今回の視察により全国公募による学生の受入れに伴う体制整備や、受入れ後の高校

の変化など、議論を尽くす必要があると感じています。

視察の中では礼文島のような離島ではない地域の全国公募についても情報提供を頂いておりますので、今後、そうした市町村にも話しを伺いたいと考えています。

羅臼高校は道立高校であります。幼小中高一貫教育を進めている当町にとって、高校存続を目指した全国公募の取り組みは大変重要ですので、教育委員の皆さまと議論を深めて参りたい。

以上、行政報告と致します。

それでは、議事に入ります

## 【議 事】

### ●報告 第9号 諸会議・諸行事について

#### ○石崎教育長

それでは、報告第9号「諸会議・諸行事について」、担当課長から説明をお願いいたします。

#### ○学務課長

報告第9号「諸会議・諸行事について」、ご説明いたします。諸会議・諸行事につきまして、7月から8月の主な予定を掲載しております。

学務課の所管行事の今後の予定としまして、7月21日から埼玉県北本市の議員及び市長など5名が当町のESDの取組みの視察等で来町しますので対応予定です。

7月26日には町内の学校の先生方を対象に知床未来中学校で「ESD&幼小中高一貫教育合同研修会」を開催し、翌日27日には「羅臼町教師力向上研修会」を開催する予定となっております。

8月の予定ですが、8月9日、10日、12日が小・中学校、10日、12日、15日が高校の学校閉庁日となっております。

また、24日に高校生の一日議会が開催され、高校2年生を対象に実施予定となっており、同日に第8回羅臼町教育委員会を開催予定です。

続きまして、社会教育課の所管事業ですが、7月27日より「第39回ふるさと少年探検隊」が開催される予定、8月3日から5日まで「寺子屋キッズ」が開催予定となっております。

図書館、郷土資料館の予定については後ほど資料をご確認願います。

私からは以上です。

○石崎教育長

ふるさと少年探検隊は2年ぶりに全行程での実施を予定しており、20名を超える参加申込みがあるとのことですので、無事開催できればと思います。

報告第9号について、ご意見、ご質問はございますか。

(意見・質問等は特になし)

○石崎教育長

それでは、報告第9号「諸会議・諸行事について」は承認されました。

以上で議事を終了いたします。

## 【その他】

### ●指導主幹通信について

#### ○石崎教育長

その他として、「教育指導主幹通信について」報告をお願いいたします。

#### ○横澤主幹

(主幹通信について説明)

東京書籍標準学力調査の結果について各小、中学校の学年別正答率と同一集団の経年変化について掲載しています。

中学校については1年生が概ね全国平均であり英語の成績が良い傾向にあり、2年生と3年生については全教科全国平均を下回る結果となっています。

中学校では、入学した時の成績から落とさないことを重要視して授業改善に努めているところですのでご理解を頂ければと思います。

全体的に小学校の成績は全国と比較し平均的もしくはやや上回る成績で、特に羅臼小学校の現在の3年生と春松小学校の現在の6年生の点数が伸びていることから、この2つの学年の指導方法を詳しく分析することで、どのような指導が良かったのか見えてくると考えていますので、両小学校に対して去年から今年にかけての指導で効果的であった部分を検証するように依頼しています

各学校の分析結果が出ましたら改めてご報告させていただきます。

私からは以上です。

#### ○石崎教育長

ただいまの報告について、ご意見、ご質問はございますか。

#### ○葛西委員

各学校の分析結果はぜひ共有して頂ければと思います。

悪い部分を探すよりも、良い部分を各学校で共有して頂ければと思います。

#### ○石崎教育長

他にご意見、ご質問はございますか。

(意見・質問等は特になし)

○石崎教育長

続きまして、「情報共有について」報告をお願いいたします。

○学務課長

第5回、第6回の教育委員会でご報告させて頂いた内容と同様ではありますが、7月8日に羅臼幼稚園と春松幼稚園のそれぞれのPTAを対象に、出生者数の推計資料を用いた情報共有を行いました。

羅臼幼稚園につきましては年少、年中、年長のそれぞれ代表者にご出席頂き、説明した結果、「保護者目線で反対する声も上がっているのかもしれないが、建物は春松幼稚園でも構わないのですぐにでも1園化を進めてほしい。」とのことで、統廃合について積極的な印象を受けました。

同日、春松幼稚園のPTA会長、副会長他、5名にご出席頂き、同じ内容を説明した結果、特に意見や質問はございませんでした。

私からは以上です。

○石崎教育長

ただいまの報告について、ご意見、ご質問はございますか。

○佐々木委員

春松幼稚園での情報共有の際に、羅臼幼稚園から上がった意見を伝えてありますか。

○学務課長

伝えておりません。

○萬屋委員

両幼稚園、情報共有後にPTA全体で情報共有している様子がありますか。

○学務課長

そのような報告は受けておりません。

○萬屋委員

両幼稚園ともに代表者が出席して頂いているということですが、保護者全体の意見として承るべきでしょうか。

特に羅臼幼稚園からは「建物は春松幼稚園でも構わない。」という意見も出ているが保護者間で共有されているのか。

○学務課長

保護者間での情報共有についての情報はありますが、今回はあくまでも情報共有させて頂いているという状況ですので、保護者全体の意見というよりはご出席いただいた代表者それぞれの意見であるという認識です。

○石崎教育長

今回、それぞれの幼稚園の代表者に情報共有させて頂いた内容を全ての保護者に伝えているのか否かについては、今のところ学校やPTAの判断に任せられている状況となっておりますが、羅臼小学校PTAの中では当日参加して頂いた方以外にも話題提供はされているようです。

しかし、PTA全体として議論されたという状況にはなっておりません。

ご承知のとおり、現在の適正配置計画では地域から統廃合を望む意見が出た場合には統廃合の検討を行うこととしておりますが、あくまでも令和6年度までは2校2園を維持する方向としています。

複式学級や少人数学級の考え方についてこれまでも議論されてきておりますが、必ずしもデメリットだけではなく、メリットもあることを認識した上で統廃合の議論を進める必要はありますが、適正配置計画にもあるとおり教育委員会としては1学年1学級を基本として進めてまいりたい。

既に教育委員の皆さまには、現在の適正配置計画を作成するにあたって過去に開催した住民説明会の記録や資料を配布させて頂いておりますので、適正配置計画の見直しに向けて内容を改めて確認して頂ければと思います。

統廃合については、羅臼幼稚園PTAの中から「建物は春松幼稚園でも構わない。」という意見も一部から出てきていますが、統廃合した場合の校舎の件についても4年前に協議した際と状況が変わっており、4年前は学級編成上、羅臼小学校の校舎を使用することが前提となっておりましたが、現在のクラス数を考えると両小学校が選択肢となり得る状況であることや、町内に公民館がない現状などを踏まえると施設の活用方法については学校教育、社会教育活動などトータルでの検討が必要になると考えております。

○佐々木委員

現在の適正配置計画は令和6年度までとなっており、令和7年度以降の新たな適正配置計画は令和6年度中に案を完成させておく必要があるはず。

間近に複式学級となる学年が見えている状況で令和7年度から1校1園化を実現させるとした場合、前回の教育委員会であったとおり最低2ヵ年の準備期間を要することでしたので、令和4年度中、遅くとも令和5年度が始まる段階では1校1園の決定をする必要があると思いますが、新たな適正配置計画の素案が完成しておらず、根拠



がない中で統廃合を進める形になってしまうことから、新たな適正配置計画の作成を開始するまでの時間的な猶予はないように感じています。

春松地区の児童生徒数が減少傾向にあり、令和6年度中に適正配置計画の素案作りを行うことによって、結果的に1校1園化のタイミングが遅れ、ますます春松幼稚園・春松小学校の児童生徒が少なくなることが懸念されるのではないのでしょうか。

#### ○学務課長

教育委員会として現在の適正配置計画を作成し、統廃合については地域からの要望に基づいて協議するという方針がある中で、令和6年度以前に統廃合の検討、協議を前もって進めるとすれば、教育長をはじめ教育委員の皆さまと方向性を決めた中で進めていくほかないと考えます。

今後の動きとしては、地域からの要望の声が上がっていない状況で教育委員会が前もって統廃合の準備を進めるか、現在の適正配置計画のとおり令和6年度に新たな適正配置計画の素案を作り、令和7年度以降のタイミングで1校1園化を実施する計画を作成するか、現在の適正配置計画を計画期間内に見直すという方法になると考えられます。

#### ○佐々木委員

地域からの要望や声というのは、どのような形で上がってきたら統廃合の検討、協議を進めるきっかけになるのでしょうか。

#### ○学務課長

要望や意見の内容や、その届け方は問いませんが、児童生徒が減少傾向である春松地区での情報共有の場では今のところそういった声は上がっておらず、逆に今のところ直ちに複式学級となる可能性が低い羅臼地区からは「子どもたちのことを考えるとすぐに統廃合を進めるべき。」との声が上がっている状況で、担当課として羅臼地区の声のみで1校1園化を進めることが方法として適切か慎重に考える必要があると感じています。

#### ○石崎教育長

佐々木委員ご指摘のとおり、現在の適正配置計画どおり令和6年度まで2校2園を維持した上で、令和7年度から適正配置計画の素案作りをした場合には、1校1園化の準備には2年から3年を要することを踏まえると、必然的に統廃合は令和9年度以降となるのは明らかで、地域からの要望や意見がなく、現在の適正配置計画どおりに進めた場合には令和7年度からの1校1園化を実現させることは現実的ではない。

既に配布させて頂いている資料をご確認して頂ければと思いますが、現在の適正配

置計画作成に伴う過去の住民説明会などの記録では「行政主導による1校1園化の計画」に地域から批判的な声が多く出され、結果として令和4年度からの1校1園化を白紙に戻している経緯もあります。

当時も生徒児童数の推計は示しており、当時から2、3名が転出などした場合には複式学級となる学年があるという数値も示していましたが統廃合反対の意見が多かったため、適正配置計画においても「令和6年度までの2校2園の維持」を約束した上で現在に至るという状況となっています。

率直に申し上げて、教育委員会として過去の経緯と現在の適正配置計画の中で動き出しづらい状況となっている。

#### ○学務課長

現在の春松小学校の1年生と2年生は両学年合わせて現在17名で、年度内に1名でも減った場合には次年度から複式学級となることは度々説明させて頂いておりますが、4年前の住民説明会の時点でも両学年併せて20名という状況であったため、説明会では「人口減少が進んでいる中で将来的には複式学級になる可能性がある。」ことは当時から説明していました。

しかし、現在に至るまで統廃合に関する要望は上がってきておらず、現在の適正配置計画の終了年度である令和6年度時点で現在の春松小学校の1年生と2年生が複式学級になっているか単式学級のままなのか現時点ではわかりませんが、令和7年度以降の新しい適正配置計画の期間内には中学校入学を迎える状況になります。

今後の児童生徒の推計から、今の春松幼稚園の年少クラスと来年度入園する2019年度生まれの人数が合わせて9名であるため、転出などの理由により人数が減った場合には1年生と2年生合わせて8名以下となる可能性があり、早ければ春松小学校では令和8年度から入学時点で複式学級となる学年が出てくる可能性があります。

2019年度生まれと今の春松幼稚園の年少クラスの学年を小学校入学時点で単式学級として維持することを考えるのであれば、今から1校1園化に向けて動き出しをしなければならぬ状況です。

#### ○萬屋委員

現在の適正配置計画を基本的な方向性として進めるのは問題ないですし、そのようにすべきだと考えますが、令和7年度以降の新たな適正配置計画の検討は令和6年度からではなく、現時点で内容を検討し始めても問題ないのでは。

検討を進めていく中で改めて児童生徒の推計や複式学級となる学年が増えていく見込みであることを今から地域に情報提供していきながら、学校現場やPTAを含めた関係団体と協議していかなければ、新しい適正配置計画の内容が地域にとって曖昧なものになってしまうのではないのでしょうか。

令和7年度以降に1校1園化するにしましなくても、今から検討を進めて地域の要望に近づけるような協議や検討を働きかけることに問題はないと思います。

○石崎教育長

そのとおりだと思います。

その中で協議や検討のベースとなるのは地域の要望やご意見であるため、今年度については各幼稚園、小学校のPTA役員や代表者に情報共有の場を設けさせて頂き、それぞれからご意見を頂けることに期待している状況であるとともに、動きがない場合については過去の経緯もあることから慎重な対応が必要になりますが、教育委員会としての働きかけが必要になる場面もあるかと考えています。

今回実施した情報提供についても「教育委員会が統廃合に向けて動き出しているようだ。」との噂話の一部から上がっていることも把握していますので、適正配置計画にもありますが、地域住民の理解なくして統廃合の実施はないということを改めて認識した上で進めて参りたい。

なお、今回の情報共有に出席して頂いた役員の方々を含め、PTA役員の多くは上級学年の保護者となるのが通例となっており、喫緊で複式学級となる可能性がある学年が春松地区の低学年や年少クラスの年代となっていることから、実際に複式学級の可能性がある年代の保護者の方々に対してのアプローチも検討すべきか。

○萬屋委員

現在のPTAの体制として学級代表のような方はいないのでしょうか。

役員だけではなく各学年やクラスの代表者の方にも説明する機会があれば、統廃合に関しての反対意見、賛成意見が現状よりも上がってくるのでは。

いずれにしても、まずはPTAの中で生徒児童の今後の推計や統廃合について話し合いの機会を設けてもらい意見を出してもらった上で、教育委員会としてその意見を共有する場を作るような動きが必要ではないでしょうか。

○学務課長

今回、各幼稚園と小学校で行った情報共有について、事務局としては役員を対象としていた訳ではなく、学校側に参加者を募って頂いた結果、役員の方が多く参加されていたという状況となりました。

改めてとなりますが、適正配置計画の基本方向と具体的方策として「複式学級となるときは統廃合の必要性について検討します。」と定めているため、複式学級となる条件が発生したとなれば検討することで問題はないと考えています。

一方で、必ずしも令和6年度の計画見直しまで統廃合の検討をしないという計画で

はないため、来年度以降、必ずしも複式学級となる学年があるわけではない状況の中ではありますが、教育委員会として統廃合の検討を進める方向性を決定すれば、動き出しをすることはできます。

#### ○佐々木委員

様々な内容の情報共有や提供はPTA向けにしか出来ないのでしょうか。

今回の情報提供の件を含めて、出席したPTA役員から口伝えで一部の保護者に伝わり、私の耳に入るころには情報が変わっていることがあり、教育委員会の考え方が誤った認識をされているように感じています。

教育委員会が直接、保護者の方を含めて町民全体にこれまでの経緯などを伝えることができれば、誤解を解くことができるのではないのでしょうか。

勝手な誤解によって困るのは学校現場であり、今後の適正配置計画の見直しにも影響が出てしまうのでは。

#### ○学務課長

これまでの情報提供の内容については校長会で説明しており、PTAに情報提供した際にも校長には同席して頂いているため学校現場への情報提供は正しく伝わっていると認識しています。

庁内の課長会議で同様の情報提供をしている他には、教育委員会部局のみが情報提供の内容を把握しており、どのような流れで誤った情報が出回っているのかはわかりませんが、教育委員の皆さまの中でそういった情報が入る様であればぜひ共有して頂ければと思います。

#### ○横澤主幹

春松小学校の参観日に行われた学級懇談では1年生と2年生の保護者に対して、年度内に両学年で1名でも減った場合には来年度から複式学級になることを校長から伝えているという報告は受けております。

#### ○芦崎委員

4年前の適正配置計画作成の際の住民説明会は、「令和4年度に統廃合する。」という情報が広報等で先行して発表されてから行われており、春松地区としては今でも「1校1園化・統廃合の問題については行政側から下りてくるもの。」という認識があり、そのタイミングがいつなのか待っている状況だと感じている。

「児童生徒数の減少や複式学級となる基準など様々な情報提供を受けて、PTAで協議をし、意見をまとめて行政に要望したら統廃合の検討がスタートする。」という段階を踏んだ形での動き出しは期待できないと思います。

4年前は直ちに複式学級となる児童生徒数ではないという認識が保護者にあり、反対意見も多くあったことから結果的に統廃合が白紙となったが、現時点での児童生徒数や今後の入園、入学者数も把握できている状況なので、教育委員会が動き出さなければ春松地区での議論は進まない。

佐々木委員からもあったように、適正配置計画の素案作りを現時点からスタートさせ、検討や準備期間をとった上で令和7年度以降のタイミングで1校1園化することを地域に明らかにしながら進めていけば順調に進むのではないかと。

羅臼幼稚園のPTAから統廃合を進めるべきであるという話もありましたが、羅臼幼稚園の保護者の中には人数的な問題以外にも施設の老朽化が進み、改修や建替えの計画がないのであれば、環境の良い春松幼稚園に1園化して将来的には小学校も統廃合されるというイメージを持っている保護者もいるはずなので、施設の使い方を含めて地域に情報提供をしながら進めることが大事ではないかと。

#### ○学務課長

4年前の住民説明会の際には統廃合の検討、協議についても「複式学級となるときは統廃合の必要性について検討する。」「地域から統廃合を望む意向がある場合は、統廃合に向けた協議を行う。」という現在の適正配置計画の内容を提案し、最終的には同意を得た上で計画を決定したと認識しています。

説明会では「地域の意見も聞かずに、誰がどのように計画を作ったのか。」という声も上がっており、現状、春松地区から統廃合を望む声がない状況で統廃合について検討を開始した場合、4年前と同じになってしまうのではないかと懸念があります。

#### ○芦崎委員

4年前は地域住民が1校1園化について説明されることなく、統廃合が進められるという流れになってしまっていたため地域からの反発が大きかった。

今回については1校1園化を含め、児童生徒数の推計などを考慮すると現在の適正配置計画の見直しが必要なタイミングが来ているという説明を行い、教育委員会としての考えを事前に地域に伝え、意見を聞きながら1校1園化の方向性を決めて、教育委員会がある程度主導して進めるのがスムーズではないかと。

#### ○学務課長

現時点では春松地区から統廃合について特段の要望などがなく、羅臼幼稚園のPTAからは統廃合を進めるべきとの声が出されていますが、4年前と状況が大きく違うのは小学校の統廃合先が両小学校どちらも選択肢に入るという点で、春松小学校に統合した場合、4年前に統廃合について反対意見が少なかった羅臼地区から「4年前は羅臼小学校に統合という話だったはず。なぜ、春松小学校に統合するのか。」という反

対意見が上がる可能性があり、現状では適正配置計画に統合先の決め方などについて定めているものが何もないため根拠を示すことができない。

#### ○社会教育課長

統合先を春松小学校にした場合には通学バスの問題があり、運転手の確保を含めて課題がある。

#### ○萬屋委員

バスの問題については解決するしかないのでは。

4年前の統廃合の協議の際にも通学バスの運行が確保できていないことが、反対の大きな要因になっていたのにも関わらず、次の適正配置計画の作成を進めるにあたり、「バス運行については車両や運転手の確保が困難であり引き続き検討中。」ということにはならないのでは。

#### ○学務課長

現在、運行可能な通学時に使用できるバスは4台あるが、運転手が不足しており3台で運行しているのが実態です。

統廃合先を春松にした場合と羅臼にした場合で、通学時にバスが何台必要かはそれぞれの地区の児童生徒数から推計したところ、どちらの地区に統廃合したとしても現在運行中の規模のバスが6台必要になる見込みです。

今現在、3台しか運行できていない状況の中でさらに、阿寒バス側に3台追加で運行してもらおうということは簡単な問題ではなく、阿寒バスの運行に頼らない方法を取るとしても、大型バスを運転できる人材の確保、安定的な運行体制を整えること、安全管理の面など整理すべきことは多々あります。

幼稚園や小学校の統廃合先のどこにするかという問題も重要ですが、公民館や図書館、統廃合後に空いた校舎の活用を含めた施設の在り方についても教育委員会の中で並行して検討し、その上で統廃合について協議していかなければ計画性のない施設配置をすることになってしまう。

#### ○葛西委員

どのような方法や手順をとっても統廃合に100%賛成となることはない。

地域から統廃合を望む声があれば検討するという計画で動いており、少ない参加者でしたが羅臼幼稚園PTAとの情報共有の場で既に統廃合を望む声は出ているということになりませんか。

大声で反対している声を地域の声としていては先に進めるのは難しいと感じます。

○社会教育課長

地域の合意を得た上で現在の適正配置計画を策定し、地域からの要望を受けて統廃合の検討を行うという計画の下で進めているというところでは、PTAをはじめとした地域の方々と協議し、意見をまとめて頂くことが今の適正配置計画の中で統廃合を考える上での筋道であると思います。

○葛西委員

教育委員会がそれぞれの意見を受取りに行けばよいのでは。

統廃合が必要であるという教育委員会の方針で動くならば、反対意見を受けてそこで統廃合の検討を止めるのではなく、「統廃合は行政側から下りてくるもの。」という春松地区の認識があるとすれば、もう一度、児童生徒数の推計も含めて説明の機会を設けて意見を出してもらえる場を作る必要があるのでは。

○佐々木委員

各幼稚園や小学校のPTAが保護者全体の意見をまとめる場を設けて頂いているか把握できておらず、統廃合を望む声も地域から出ていないという現状ですが、一部の保護者や地域の方の声が回りまわって教育委員の耳に入ってきているという現状をPTA事務局にお伝えし、行政の説明会や意見交換の場の案内を全保護者向けにして頂くなどして、保護者全体で統廃合についてじっくり話し合いをして頂けるように働きかけてみてはどうか。

拾い切れていない保護者の声があるという現状をPTAに対して指導するのも教育委員会の仕事であると思います。

多くの保護者の方に集まって頂ける場を整えば統廃合に関する教育委員会としての考え方をお伝えし、反対意見が多ければ少しでも理解してもらえる方法を考える必要がありますし、理解してもらえるのであれば1校1園化の準備をより早く進めることも出来るのではないのでしょうか。

○石崎教育長

全校生徒の保護者を集めた説明会を行うというイメージで間違いありませんか。

○佐々木委員

「地域の現状と教育委員会の考えを多くの保護者へ情報提供したいので、全保護者へご案内して頂きたい。」という教育委員会側の意図はPTA事務局に伝えるべきだと思います。

○石崎教育長

4年前と現在とでは児童生徒数の推計に差があり、現実問題として来年度にも複式学級になる可能性がある学年があるという現状もあるため、4年前と比べると統廃合についてより現実的に考えて頂けるのではないかという印象は受けております。

また、地域の要望をより広く、多くの保護者から頂けるような方法について教育委員で再度検討していければと思います。

あらゆる方法や手順を進めても100%賛成とはなりません、最終的な判断を行政が行う必要がありますので、時間的な余裕はない状況ではありますが、過去の議論や経過を踏まえながら教育委員会内で進め方を整理していければと思います

他に何かご意見、ご質問はございますか。

(意見・質問等は特になし)

○石崎教育長

これで予定されていた議事は終了となります。

本日は大変お疲れ様でした。